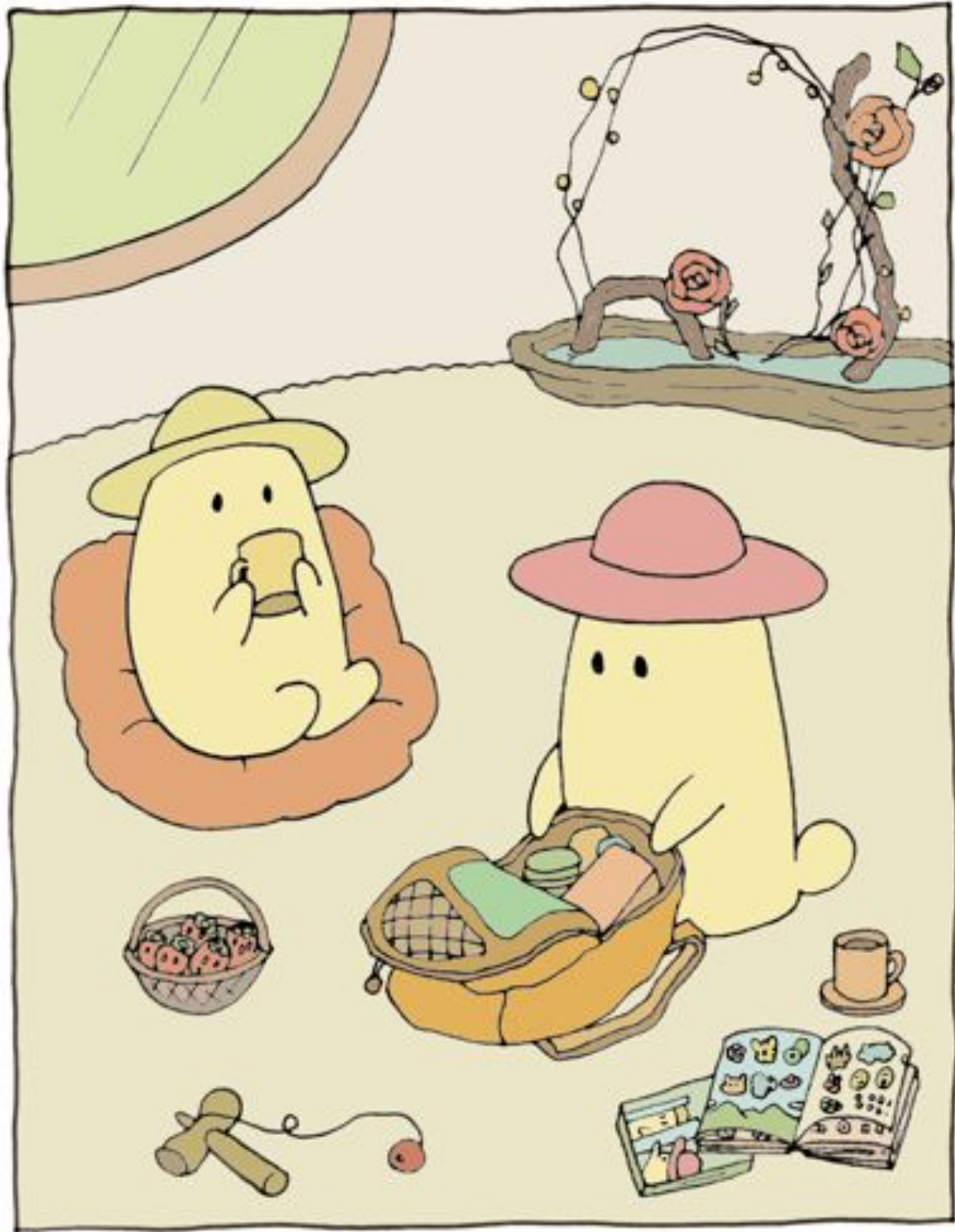
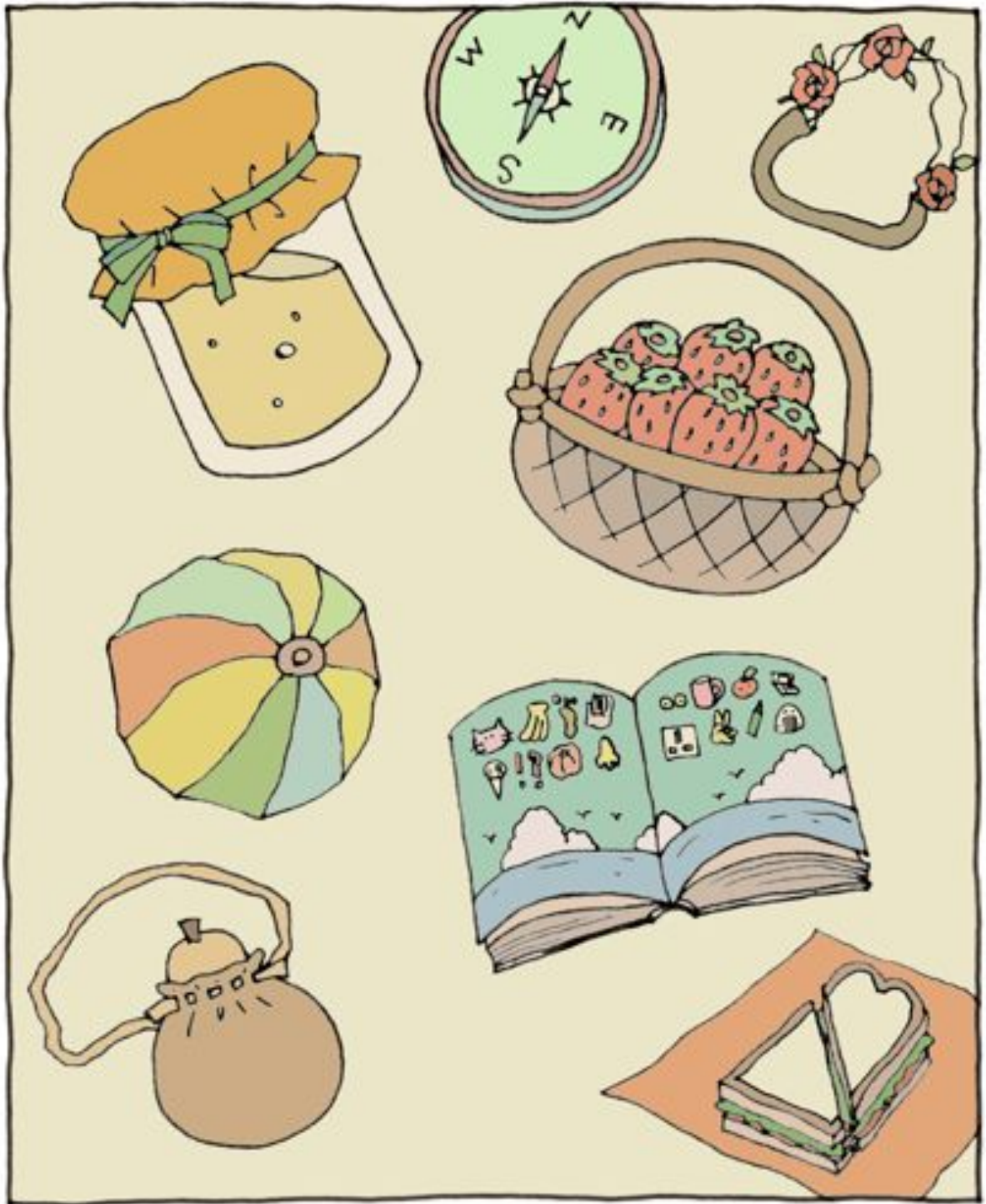


テトサルラへいく

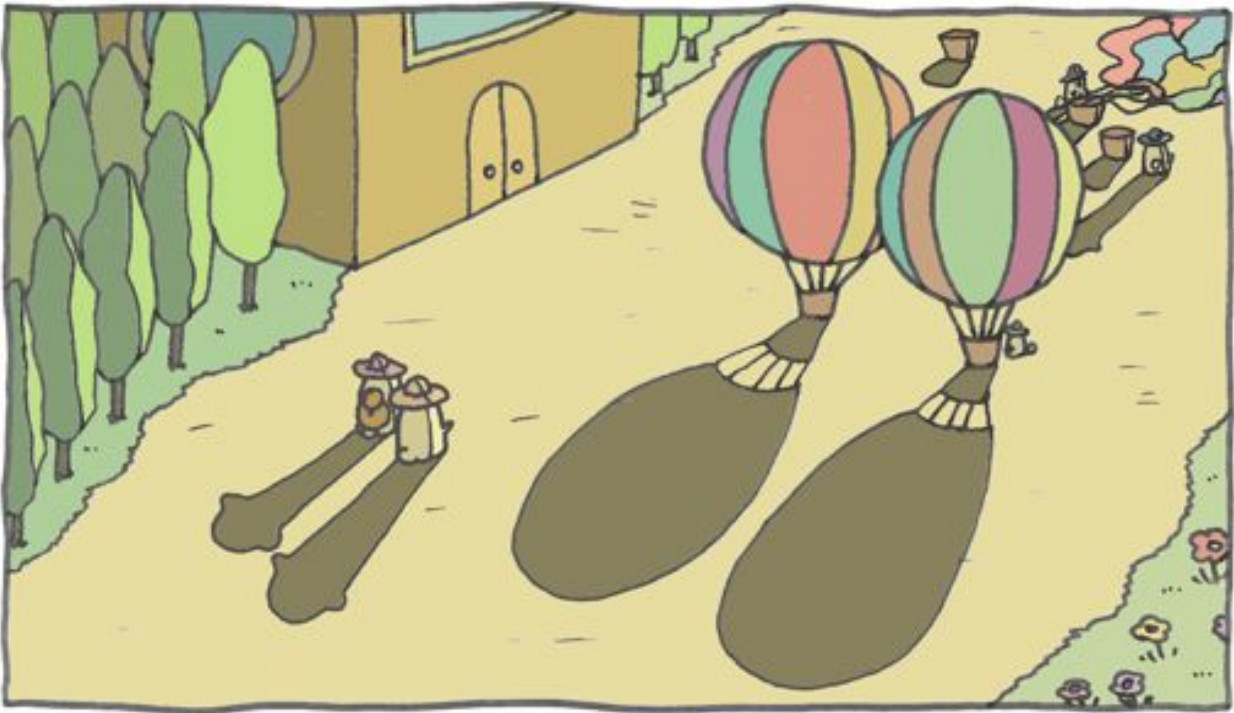
リーデルミカ



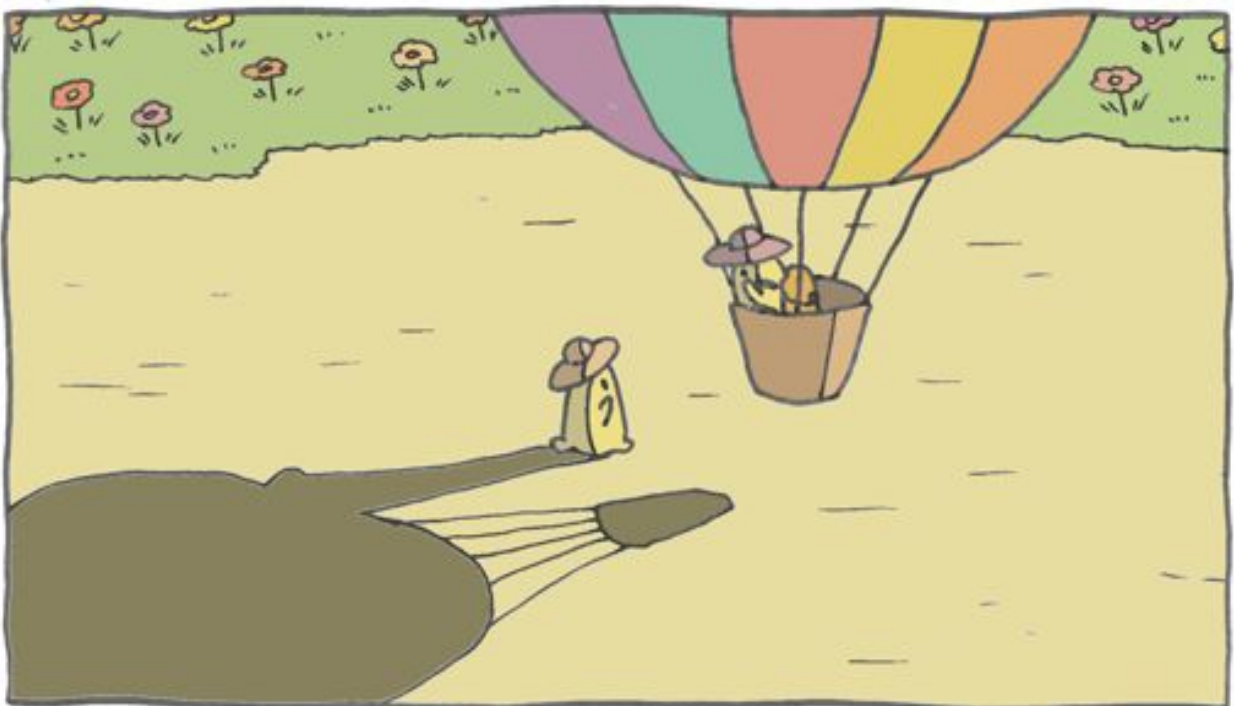
あるひのこと テトは たびの したくを
していました。だいすきな ともだちの サルに
あいに いくためです。



テトは リュックに おみやげを つめました。
はちみつ、いけばな、イチゴ、おもちゃに えほん。
また じぶんの ために みずと サンドイッチと
コンパスも いれました。



テトは ねっ ききゅう くうこうへ むかいました。
はやく おきた あさは ながく のびた かげを
みることが できるのが テトは すきでした。



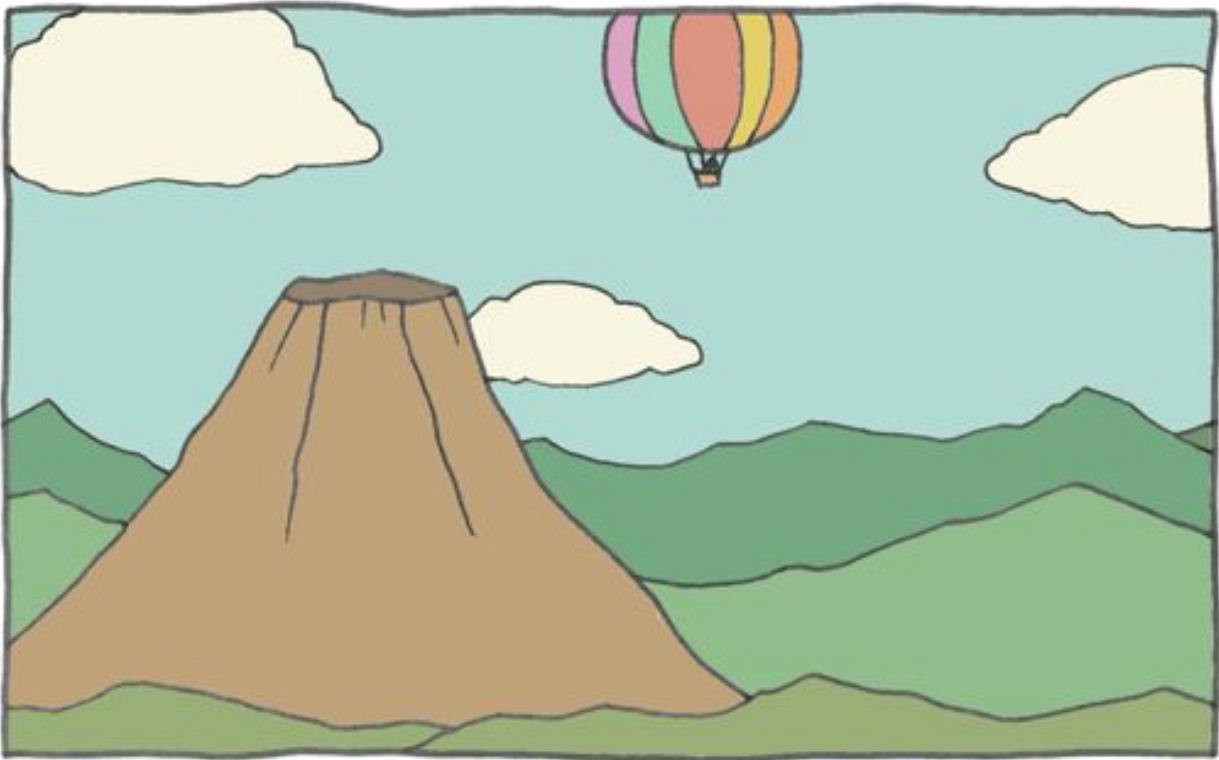
「じゃあ いって来るね。」テトは いいました。
「たのしんできてね。」ゆうじんは いいました。



テトは かれの すむ まちを こえ



かわを こえ



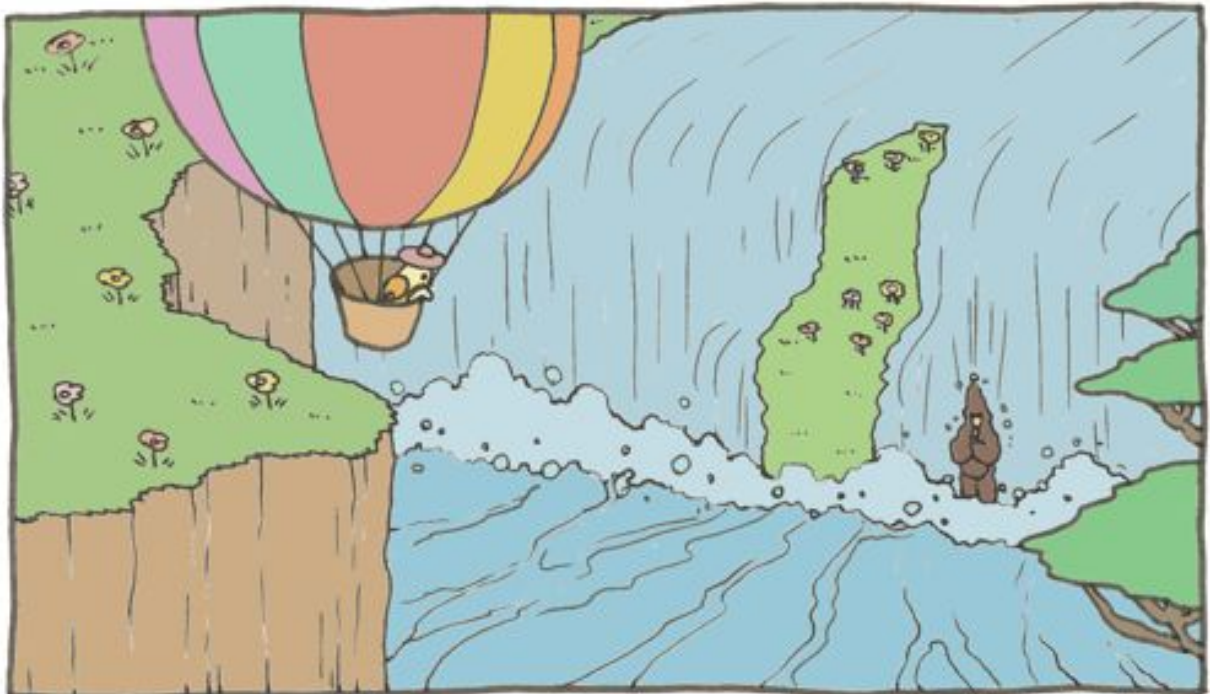
やまを こえ



みずうみを こえて



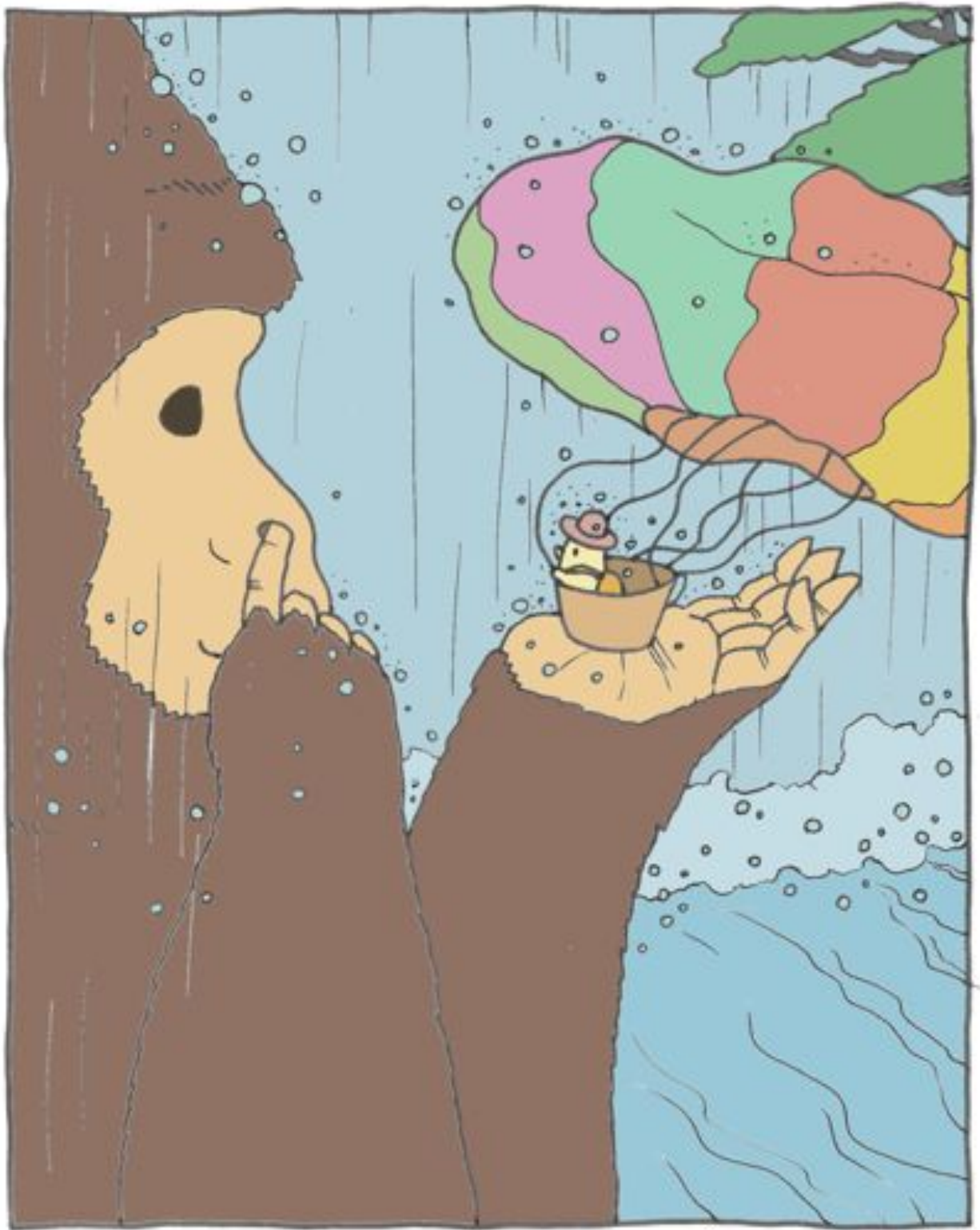
とうとう サルの まちに つきましたか
ねっききゅうの そうさは とても むずかしく
うまく おりることが できませんでした。



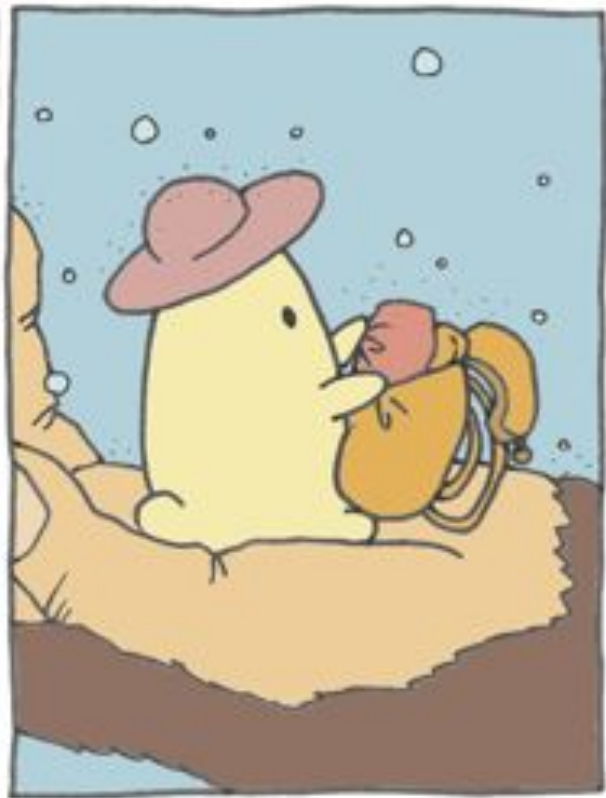
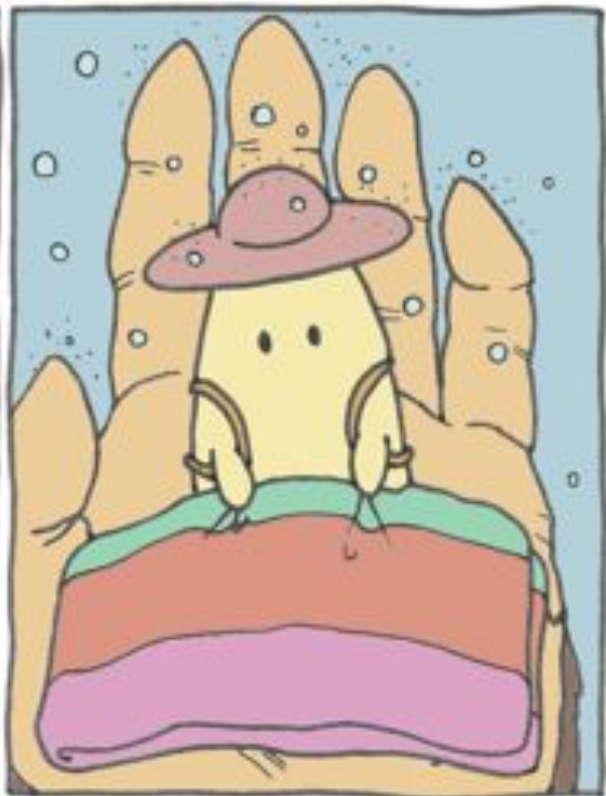
テトは ちかくの たきへ とんでいって
しまいました。



テトが たどりついた ところには ゴリラが
いました。ゴリラは たきの なかで めいそうを
していました。



テトは ゴリラの 木の うえに おりました。
「ききゅう たたむから ちょっとまってね。」
テトが いいました。



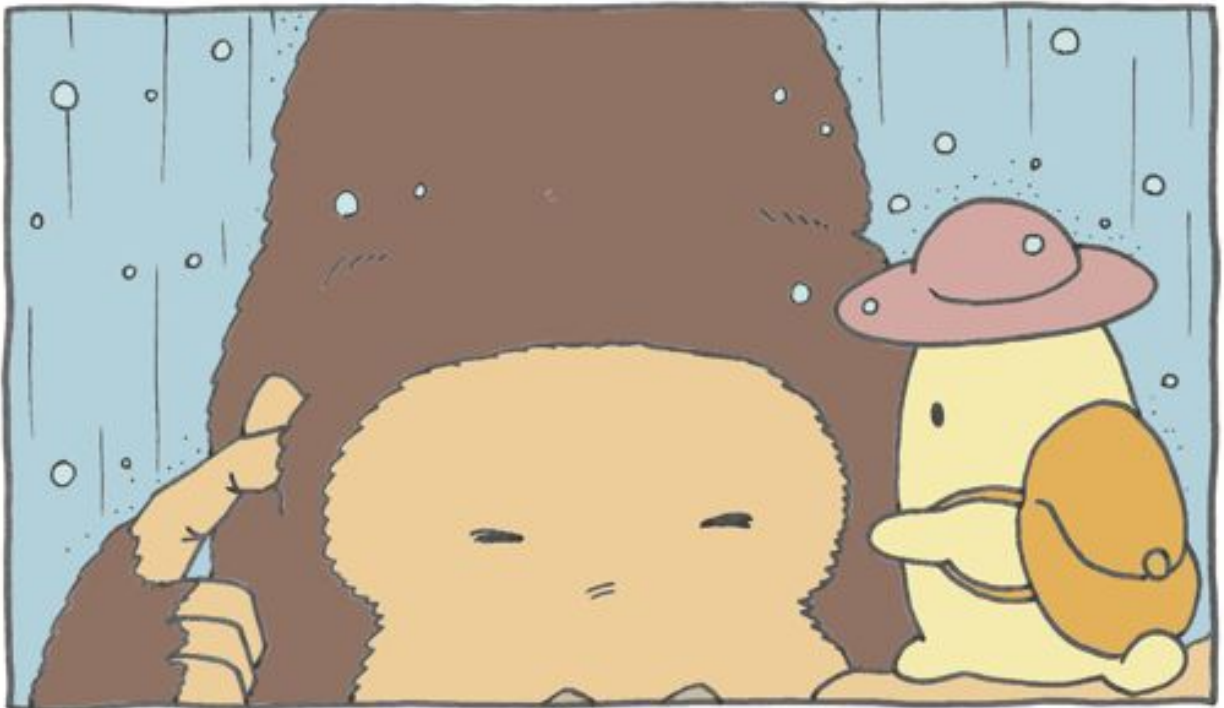
テトは ききゅうを ちいさく たたんで
リュックに いれました。
「よし。」テトは まんぞく しました。



「おまたせ。ぼくは テト。きみは？」

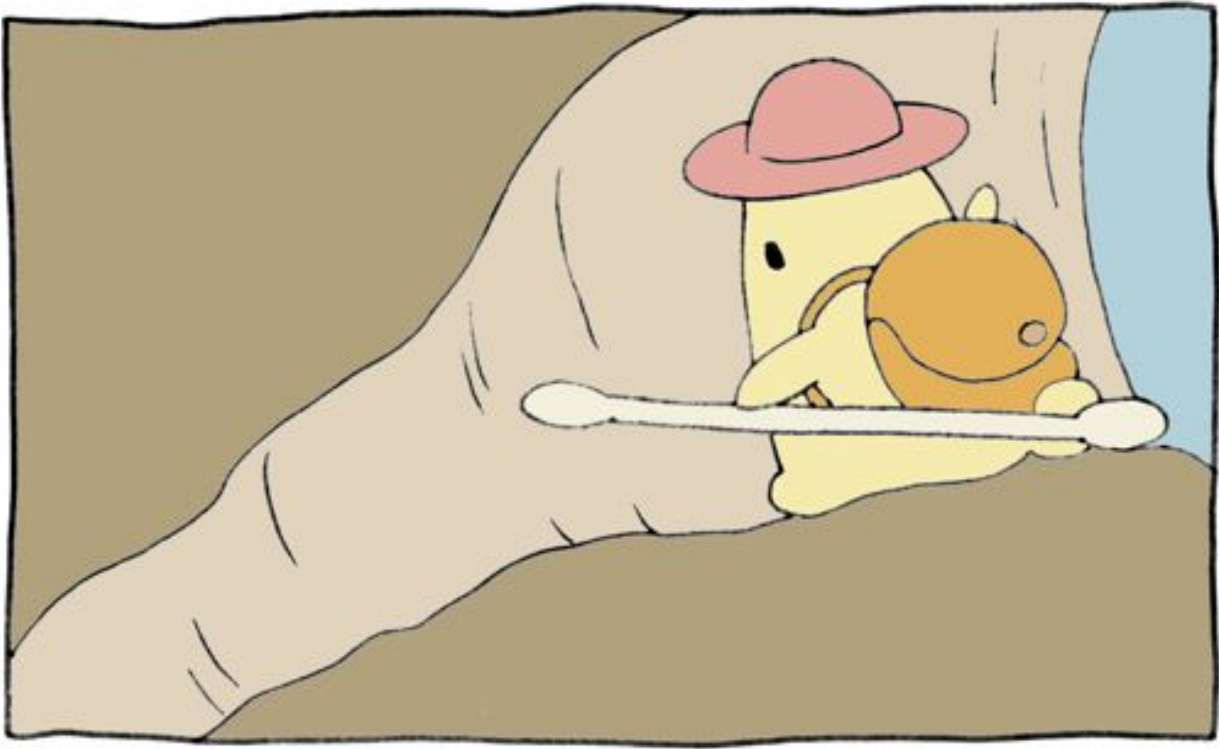
「え？」

「ぼくは テトだよ。きみの なまえは？」

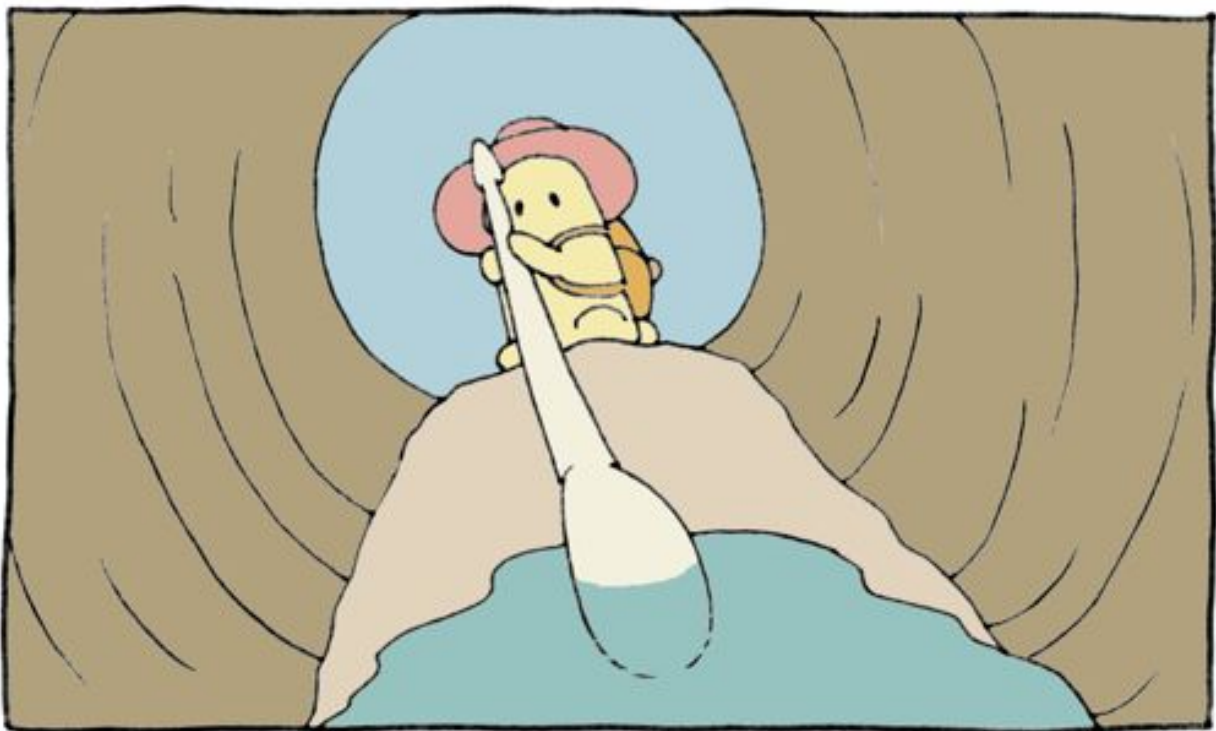


「みみに なんかも はいって きこえない！」

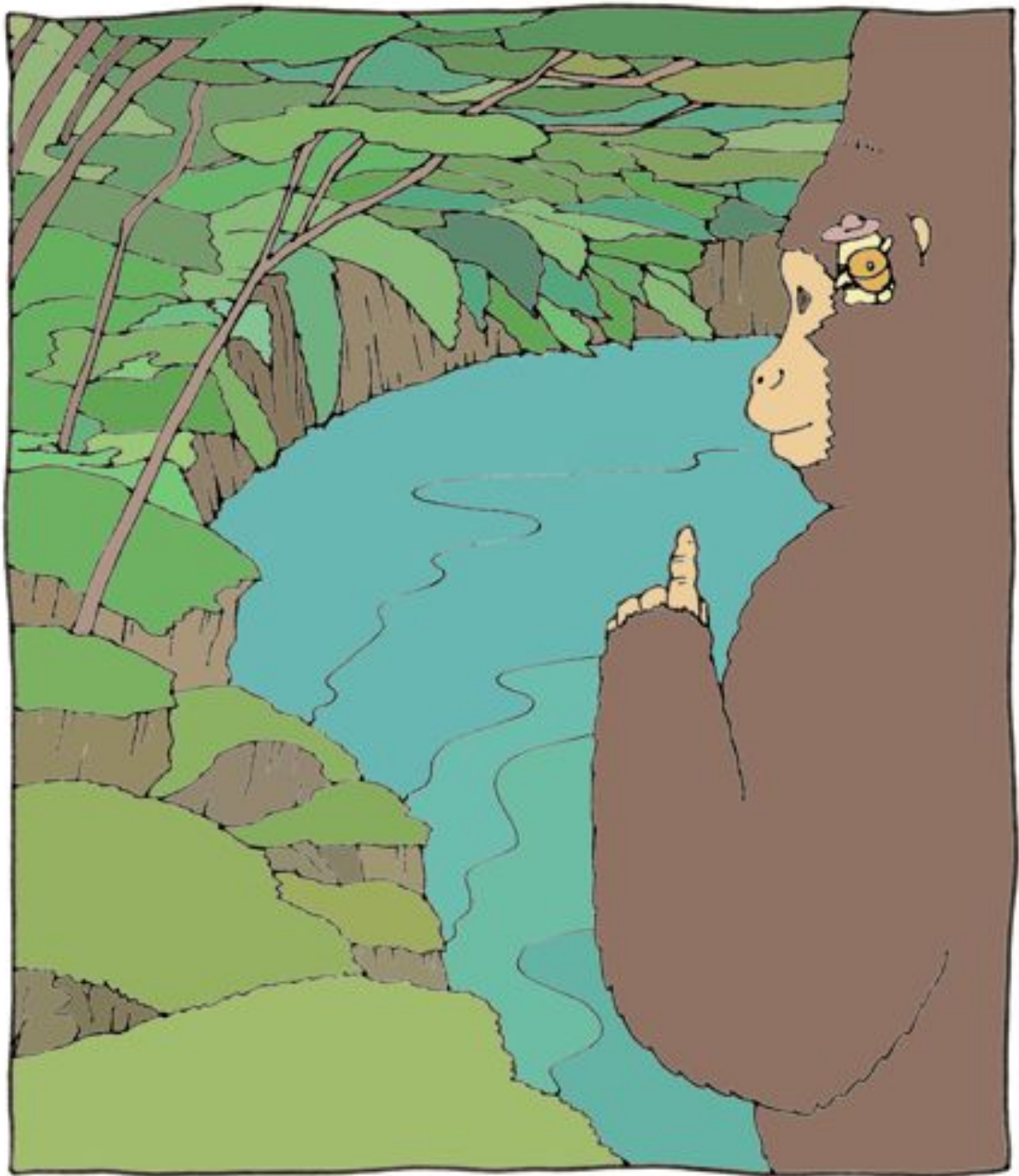
「みずが はいったのかな。」



テトは めんぼうを もって ゴリラの みみの
なかに はいって いました。



「これだな。」テトは めんぼうで ゴリラの
みみの なかの みずを とって あげました。



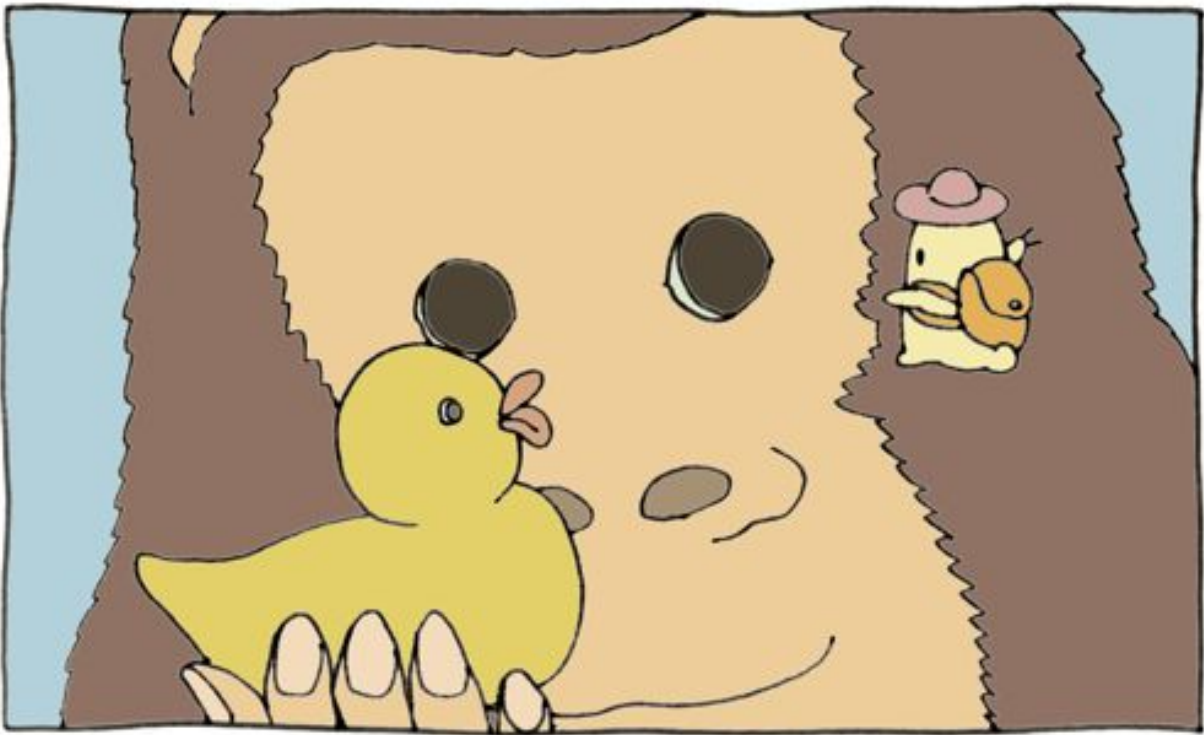
「よく きこえる。ありがとな。おれは ゴリ。」

「どういたしました。ぼくは テト。」

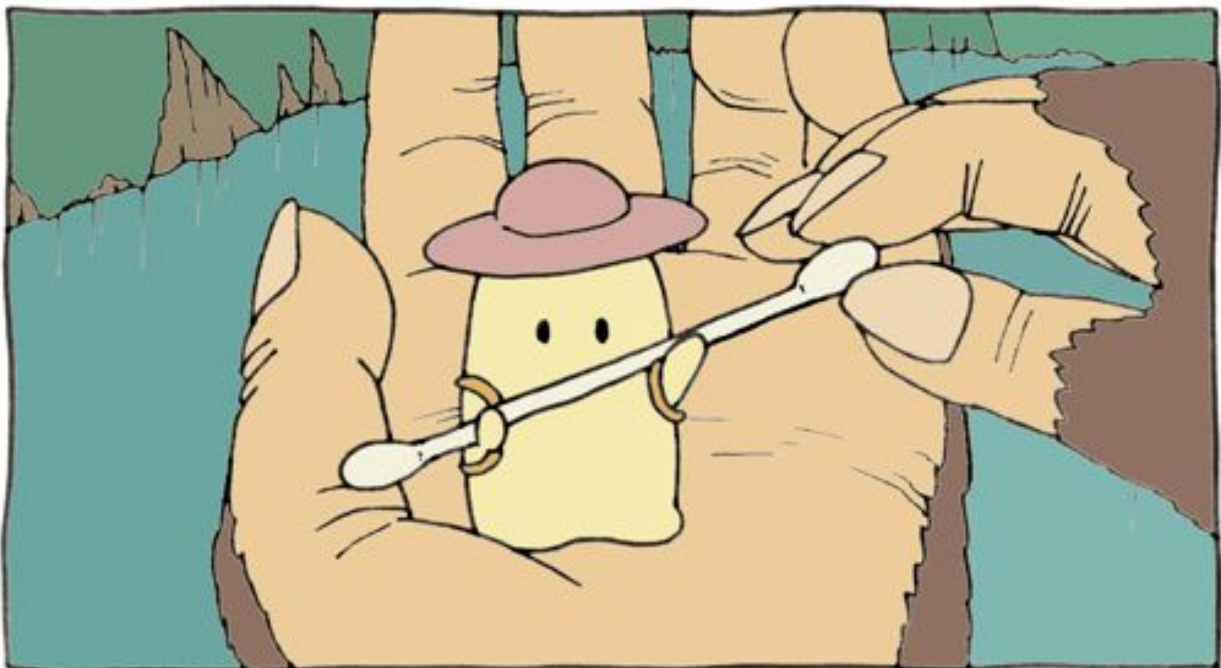
「ちいさいと いいな。みみにも はいれるし。」

「うん、いいよ。ねえ、サルって してる？」

「サルなら この かわの さきに いるはずだぞ。」



「かわを くだるなら これを やるよ。」
「ありがとう！ これ ふねに なるね。」



「オールは めんぼうで いいか。」
「...これ あたらしい めんぼう だよね？」



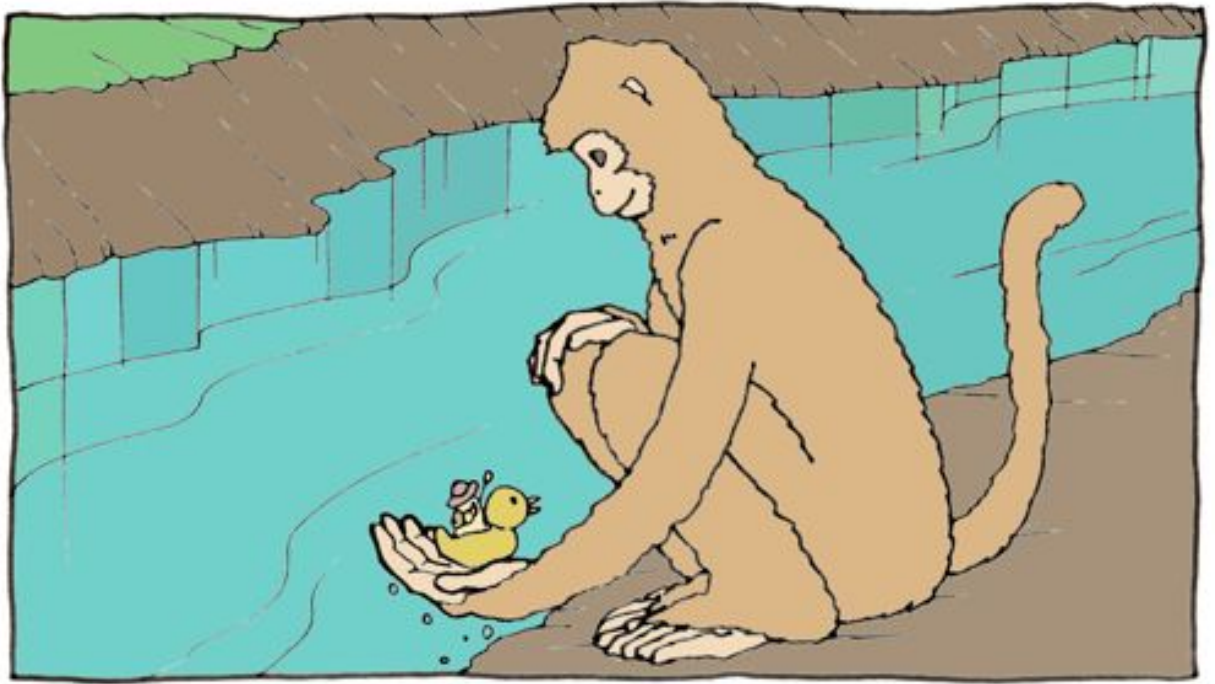
「じゃあね、ゴリ！」

「じゃあな、テト！」

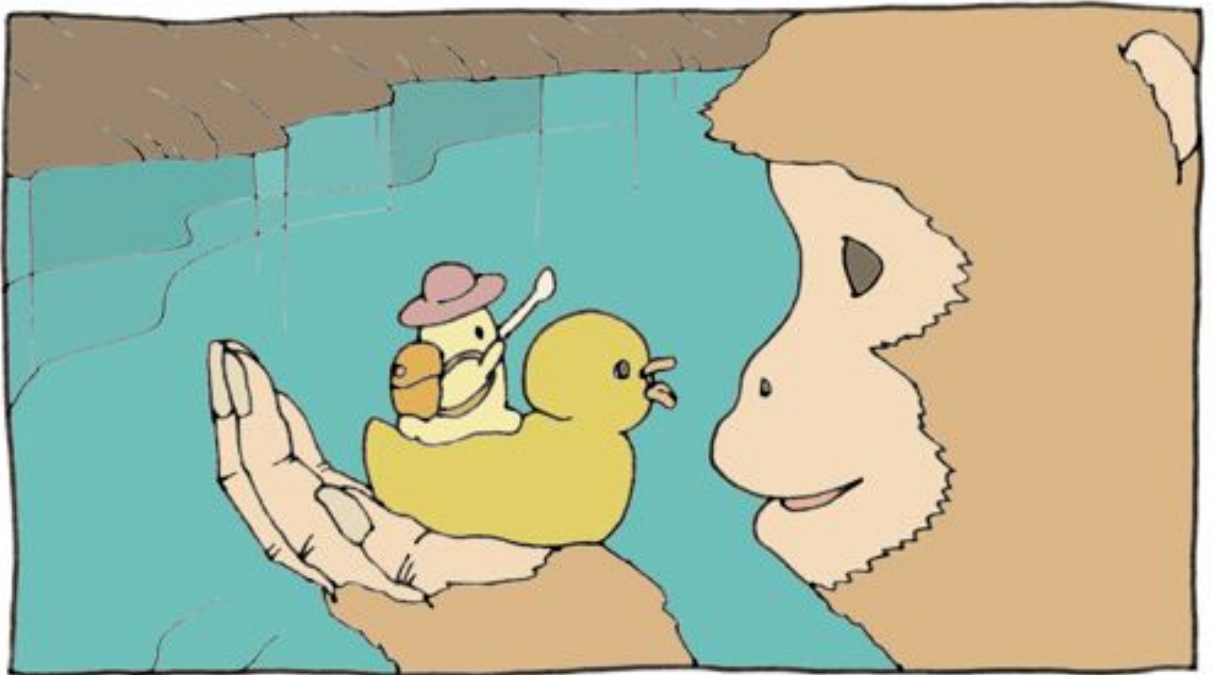
テトは かわを くだりながら すんだ くうきと
うつくしい けしきを たのしみました。



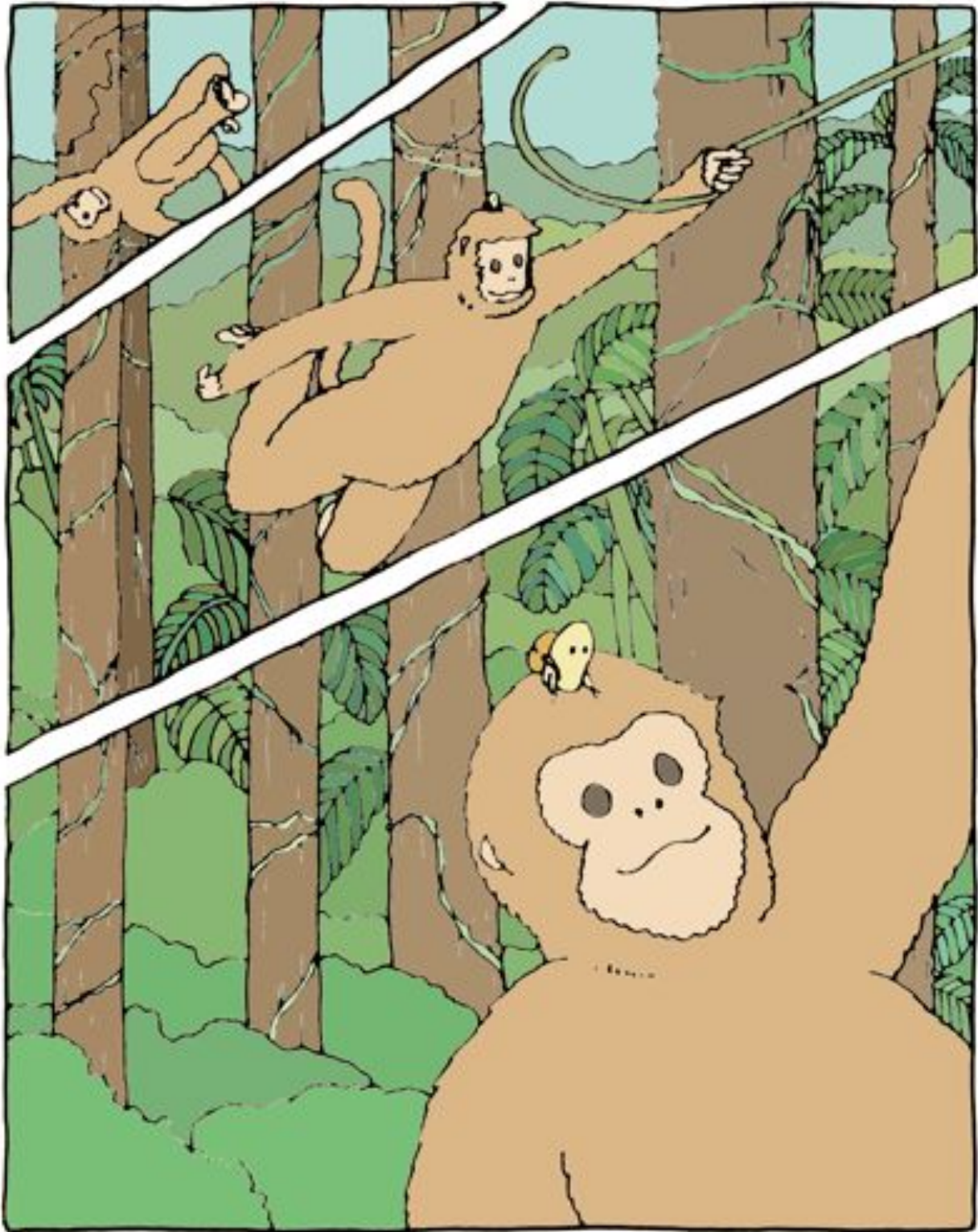
しばらくすると テトは サルの まちに
つきました。
「サルー！」
「テトー！」
ふたりは ぶじに あえて よろこびました。



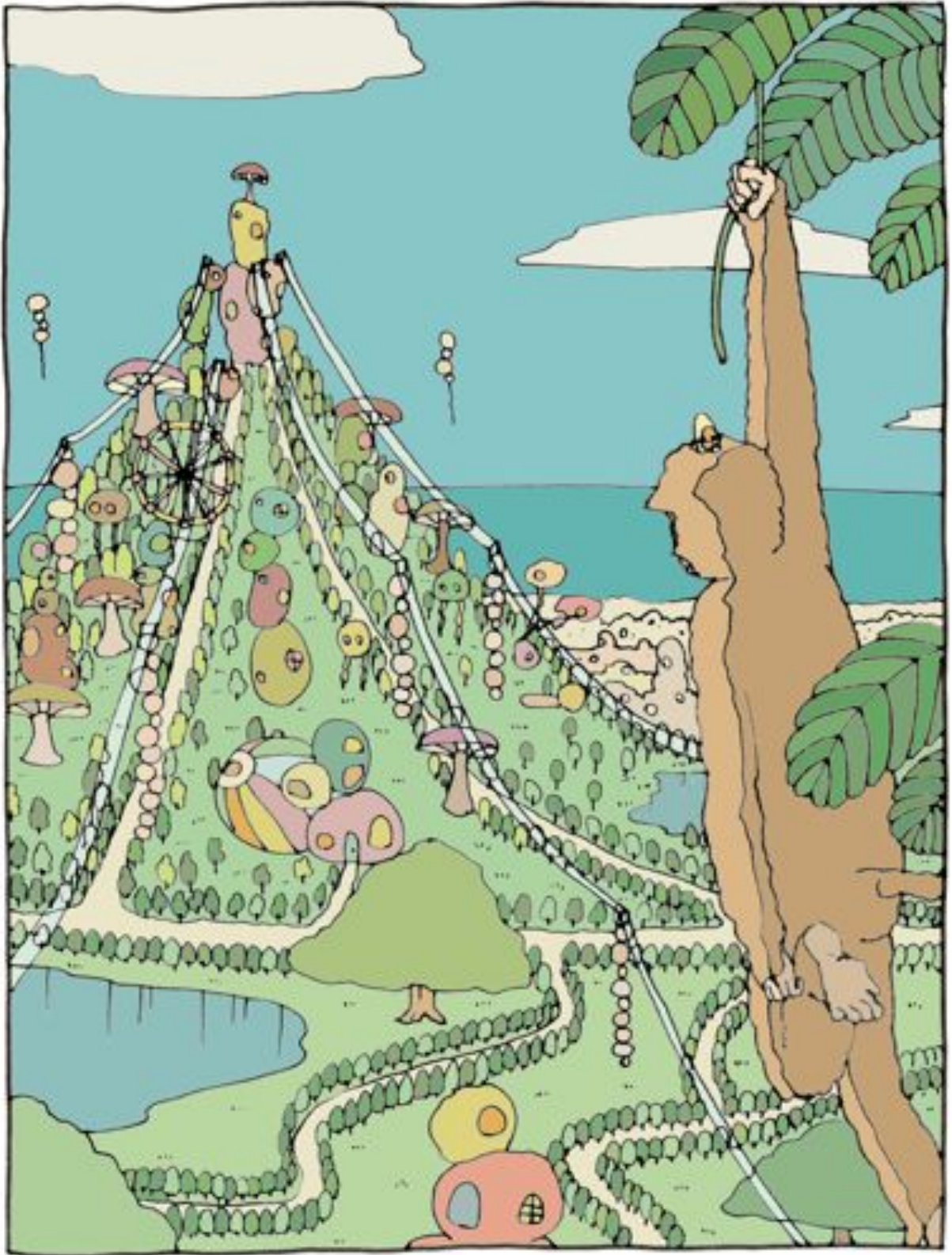
「よく ここが わかったね！」
テトが いいました。
「たきの ほうに おりるのが みえたからね。」
サルが いいました。



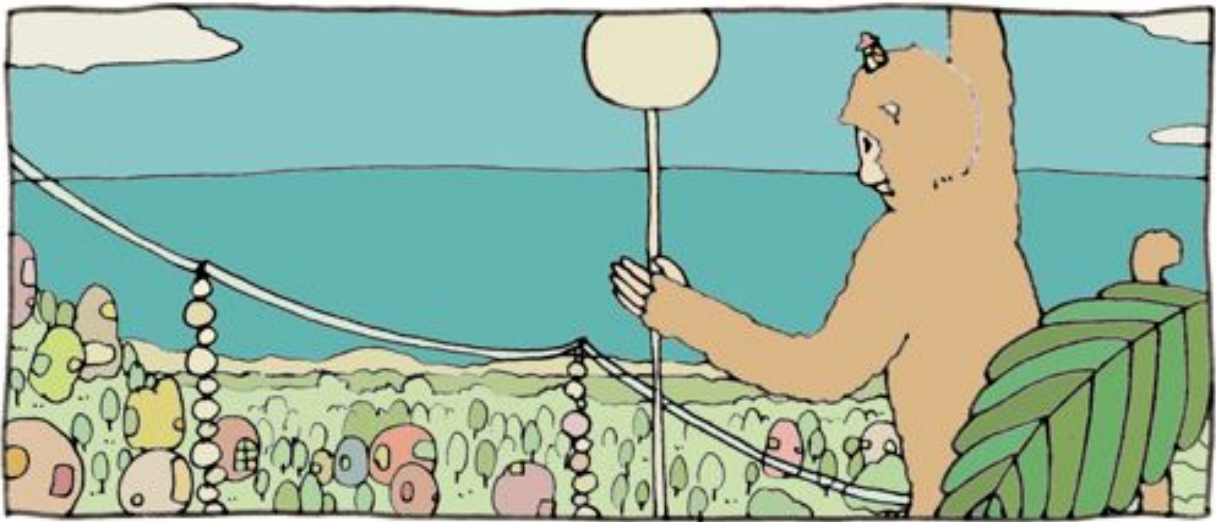
「ゴリに あったよ！ これ、もらった！」
テトは ゴリのことを サルに はなしました。



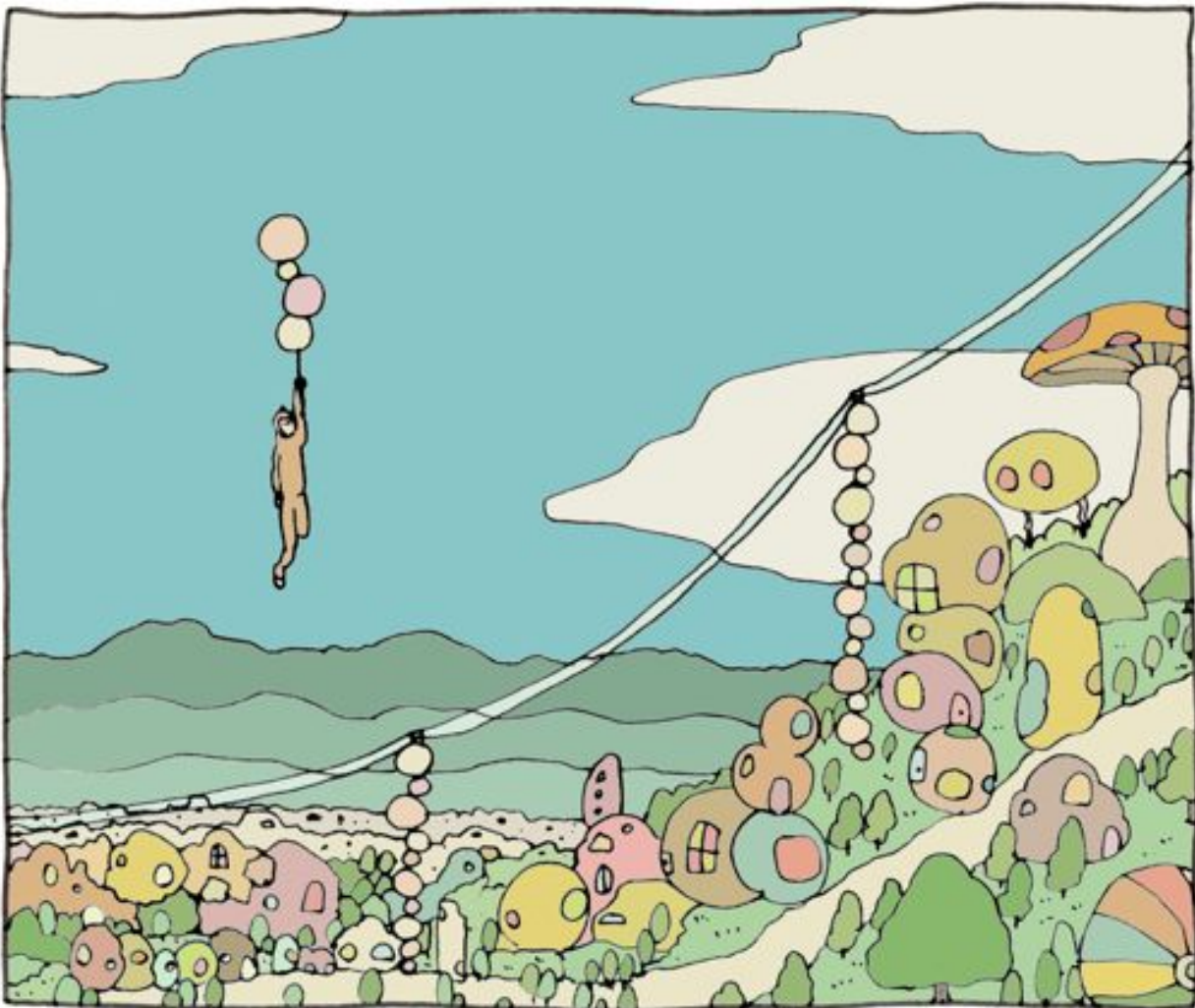
「もりをぬけるよ。しっかりつかまってね！」
「うん！」テトはぼうしとふねをリュックに
いれました。
サルはものすごいはやさでもりをぬけて
いきました。



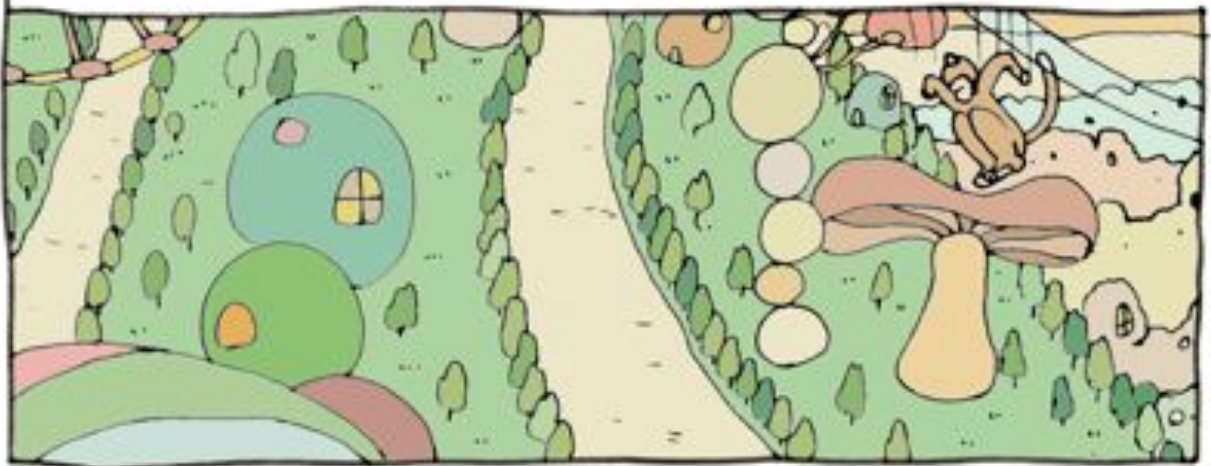
「ここが ぼくの すむまち サルラだよ！」
「おおきな まちだね！」



「これは なに？」テトが ききます。

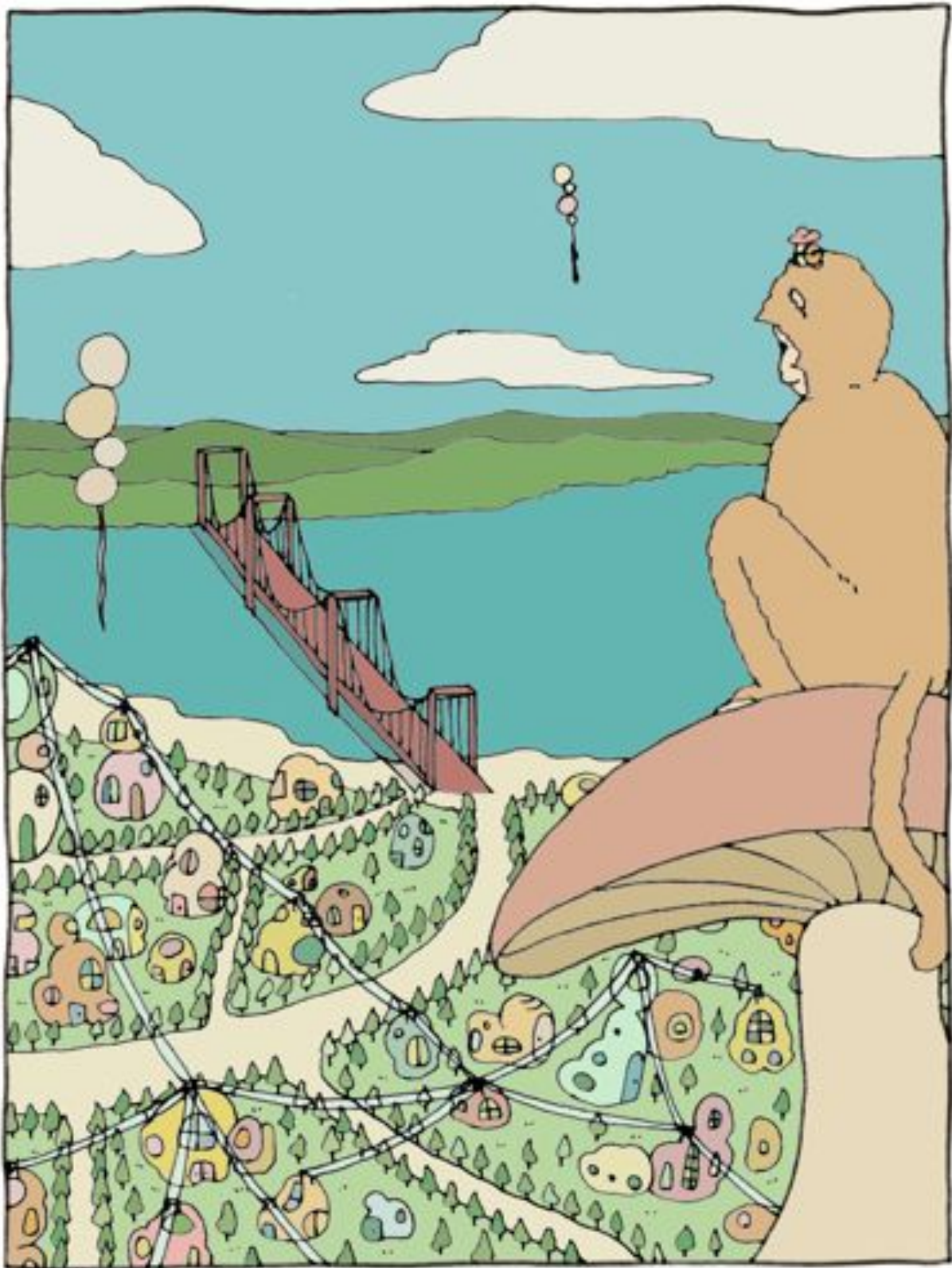


「あわふうせん。まちの マッペンに いこう！」

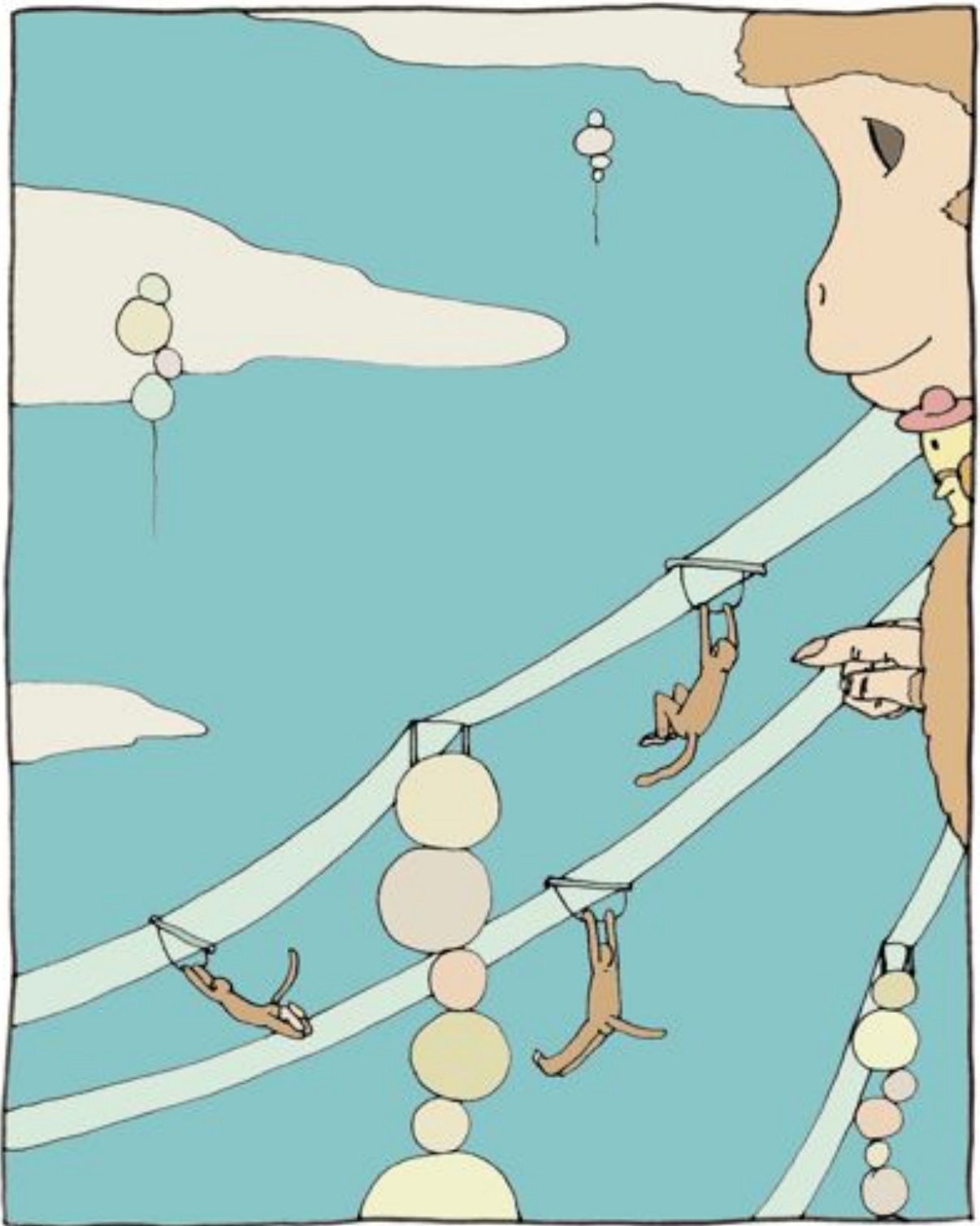


「いくよ！」

サルと テトは きのこの うえを とびながら
まちの てっぺんまで きました。



「ここから サルラの まちを みわたせるんだ。」
「たてものが おにぎり みたい！」

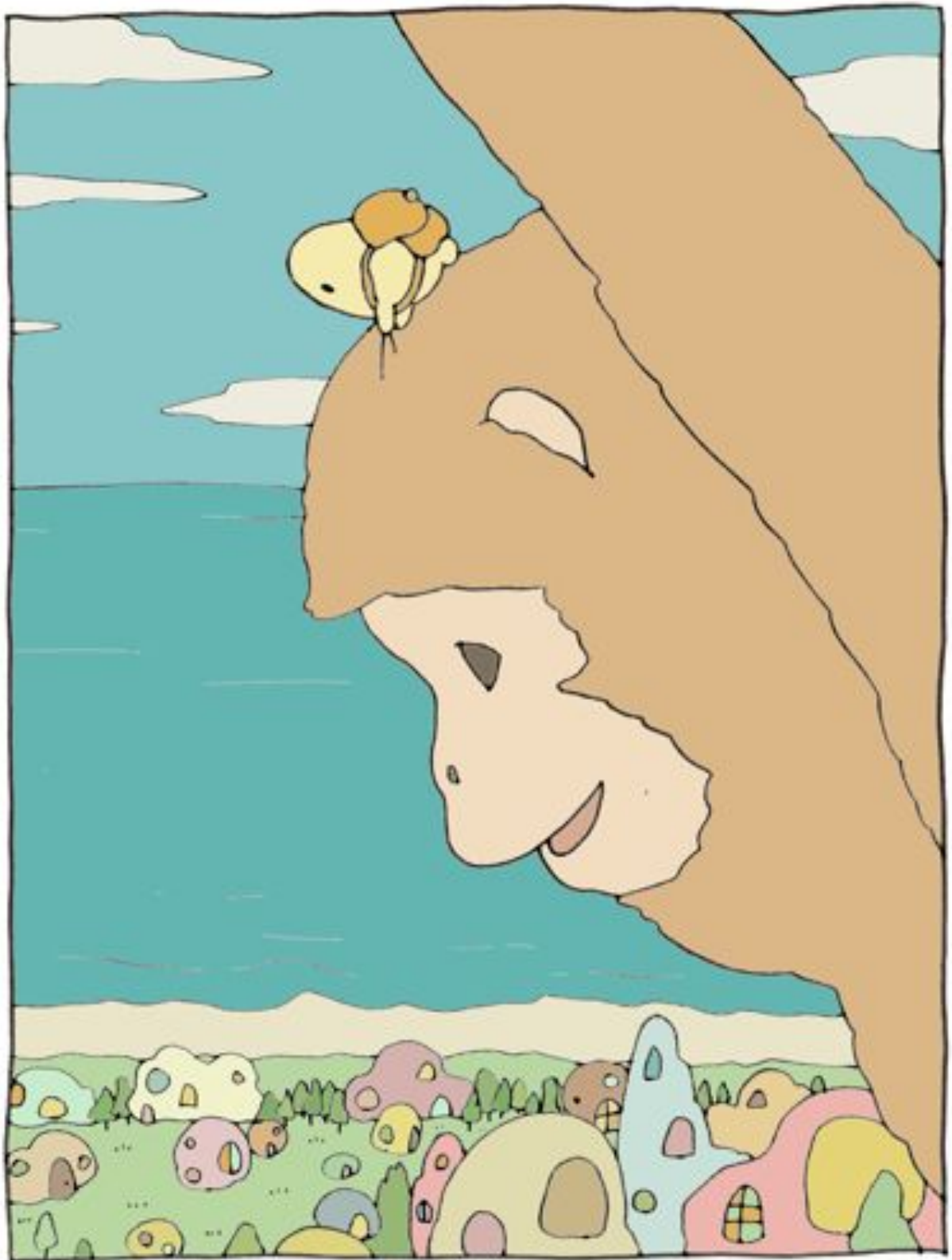


「かえりは この スカイスライダーで おりよう！」
「たのしそう！」

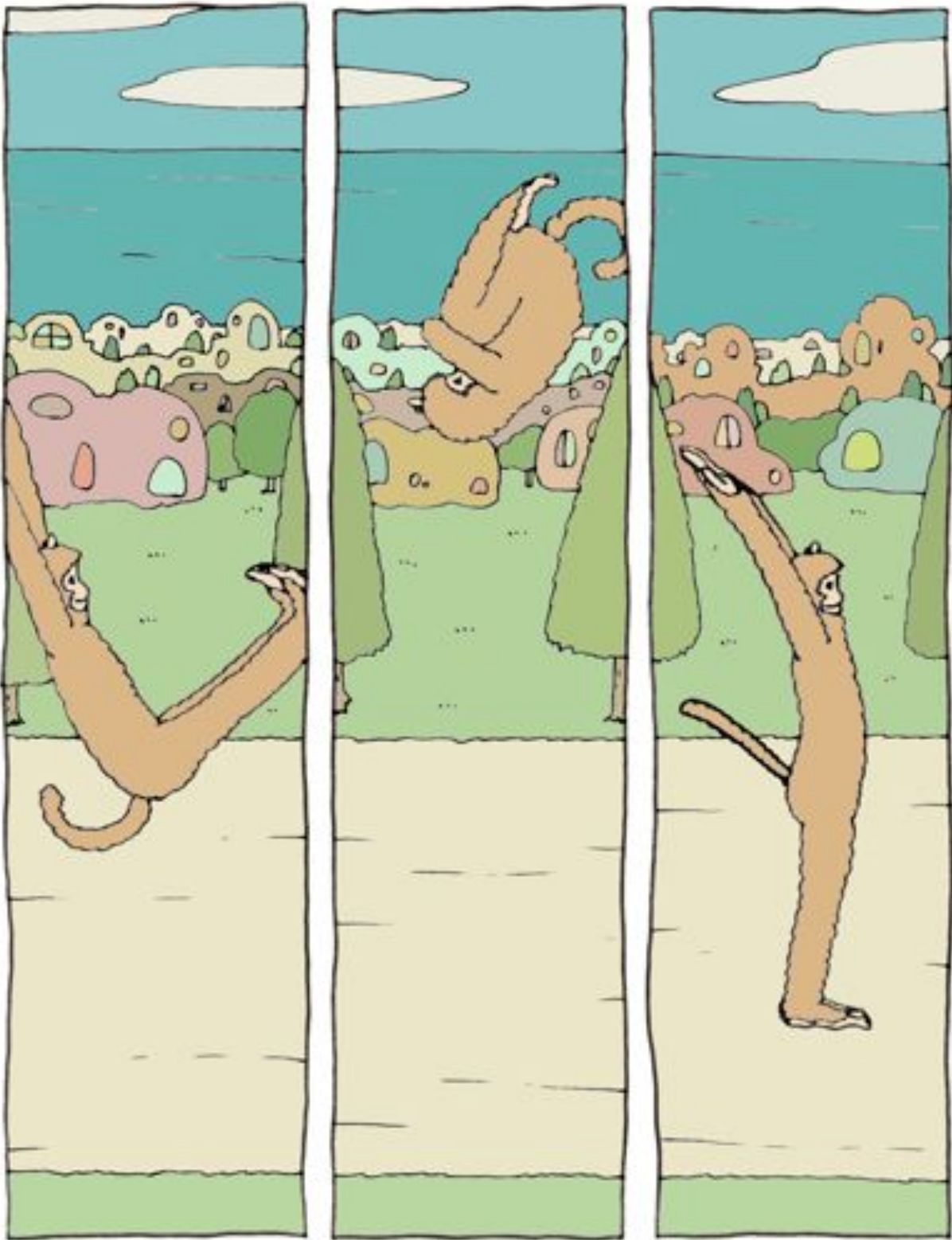


「わーい！」

ふたりは まちを すべり おりて いきました。

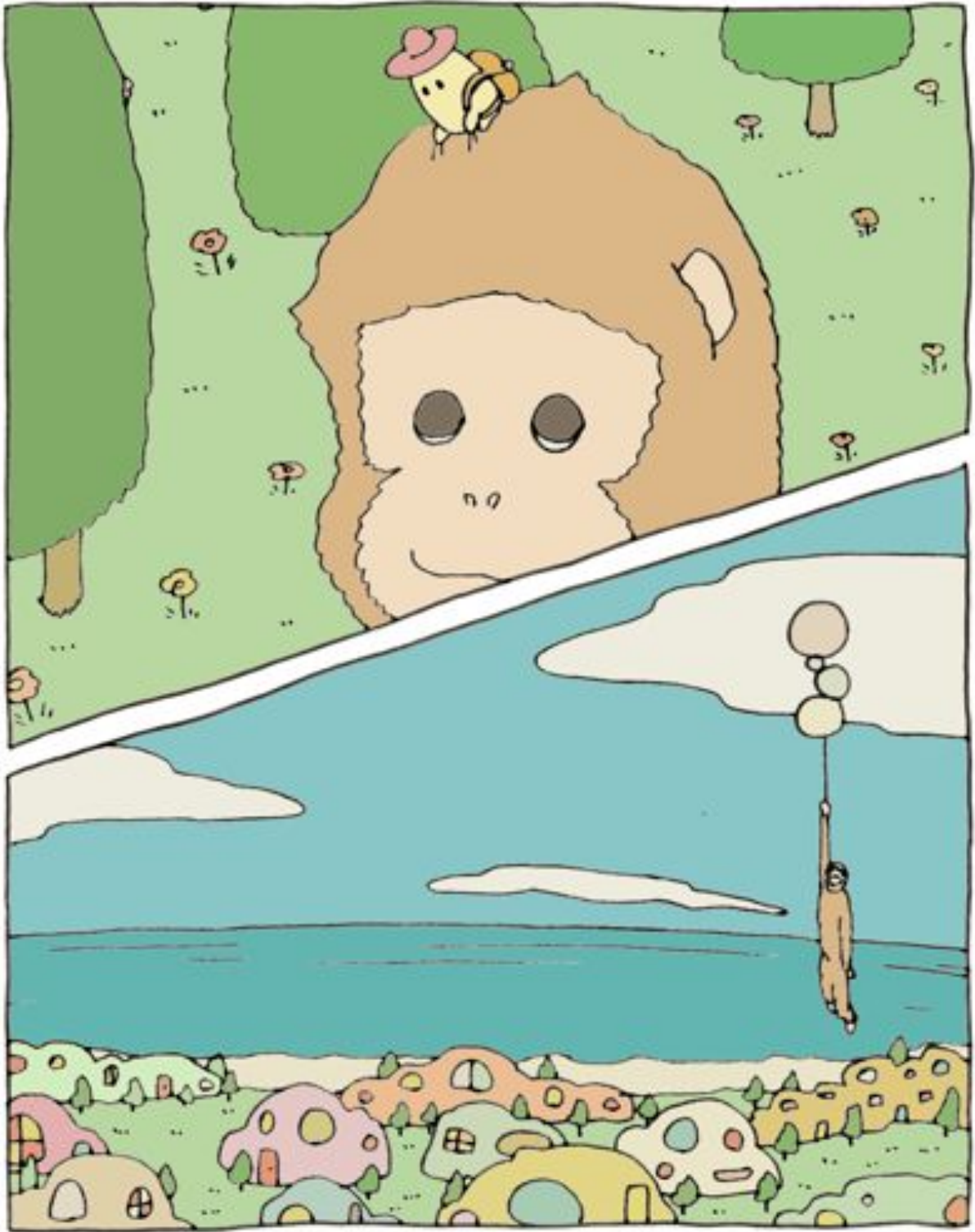


「ぼくの いえの すべりだいより はやいよ！」
テトは いままで こんなに はやいものに
のったことは ありませんでした。



「とうちゃくー！」サルは 10 かい クルクルと
まわりました。

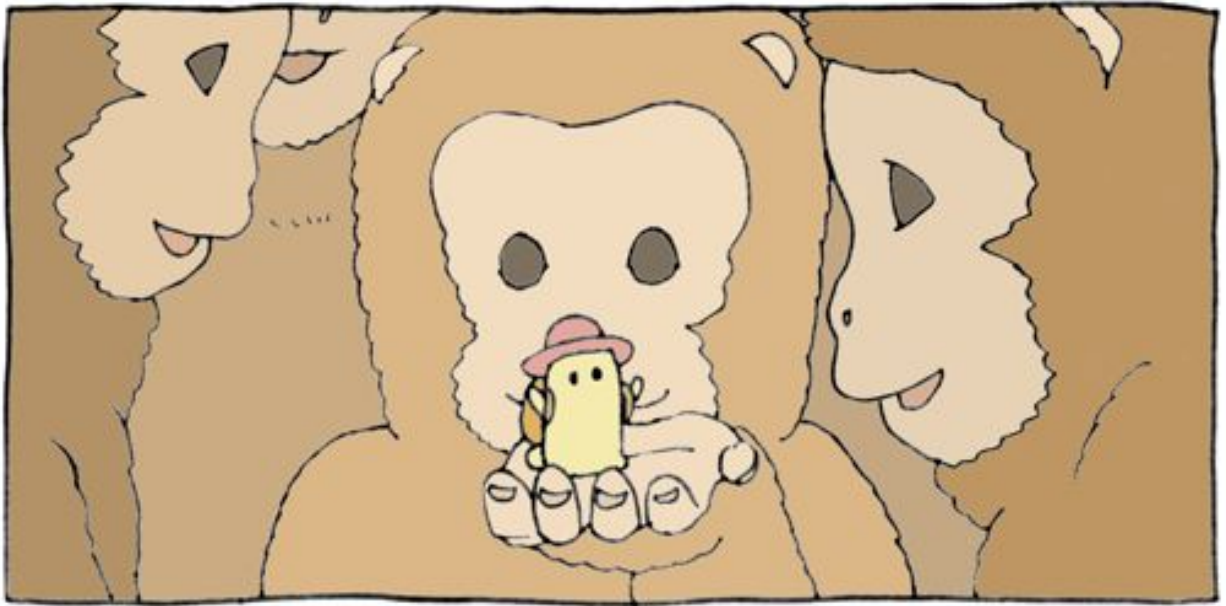
「かっこいい！」テトは スカイスライダーが
だいすきに なりました。



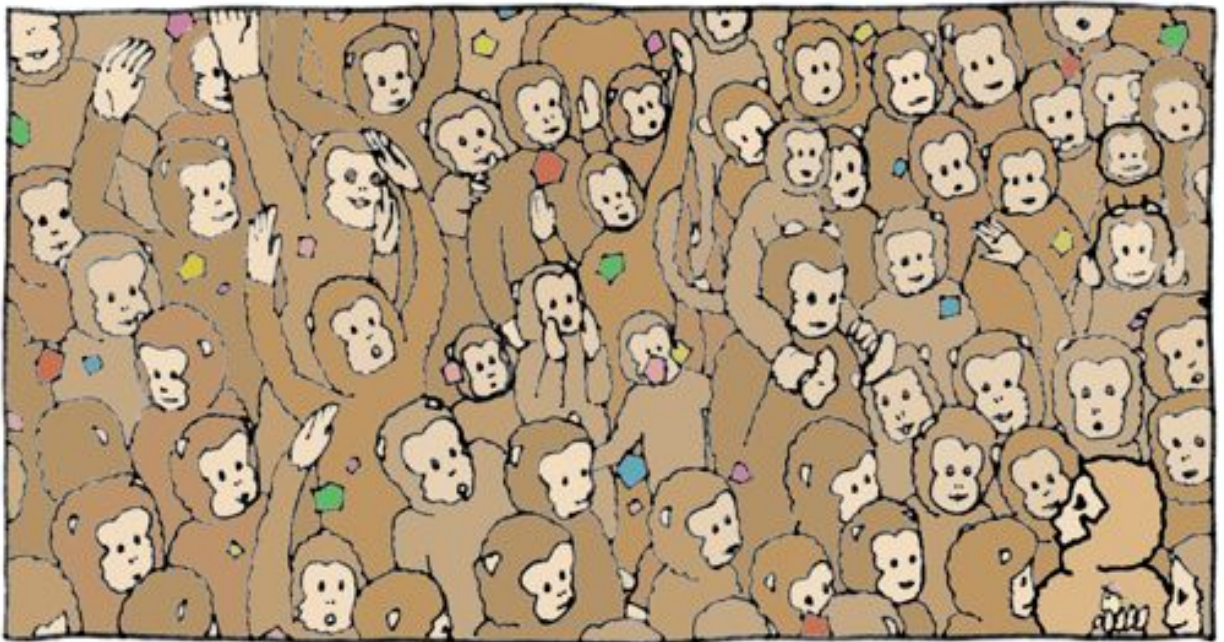
「じゃあ、サルラひろばに いこう！」
「なにがあるの？」テトが ききます。
「いけば わかるよ。」サルは にっこり
わらいました。



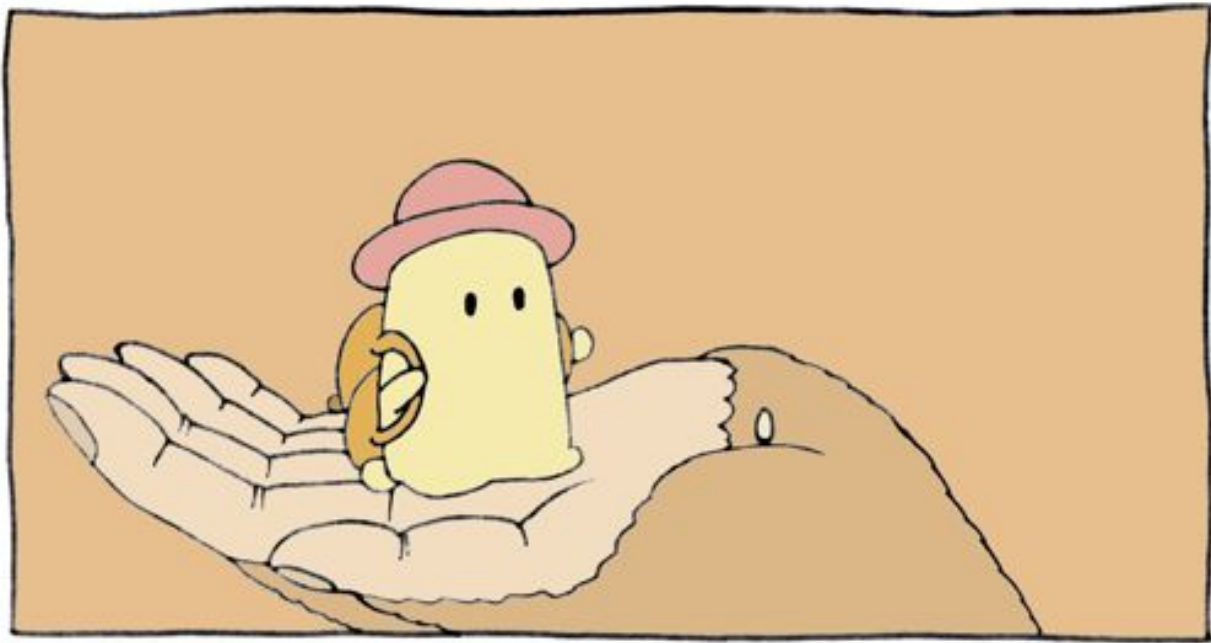
ひろばでは おおぜいの サルが まっていました。
「テトだー！」
「テトが きた！」
サルラたちは テトを みて よろこびました。



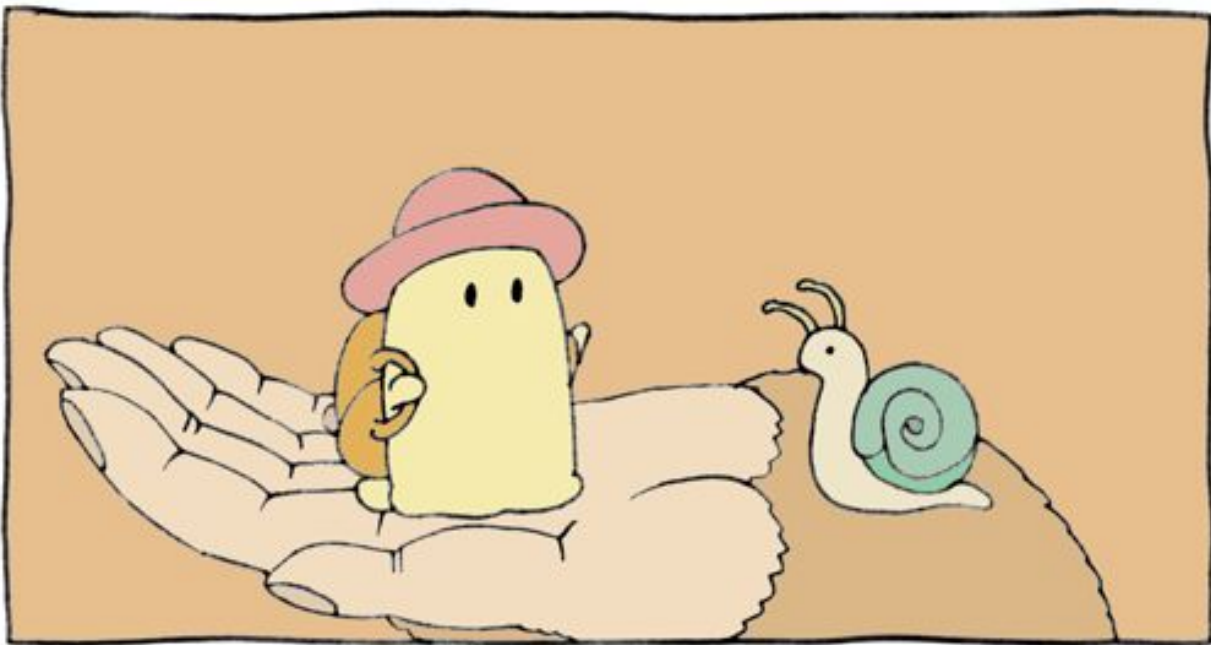
「こんにちは テト!」「こんにちは!」
サルラたちと テトは あいさつを しました。
「ちいさくて かっこいい!」
サルラでは ちいさいことは かっこいいことと
おもわれていました。



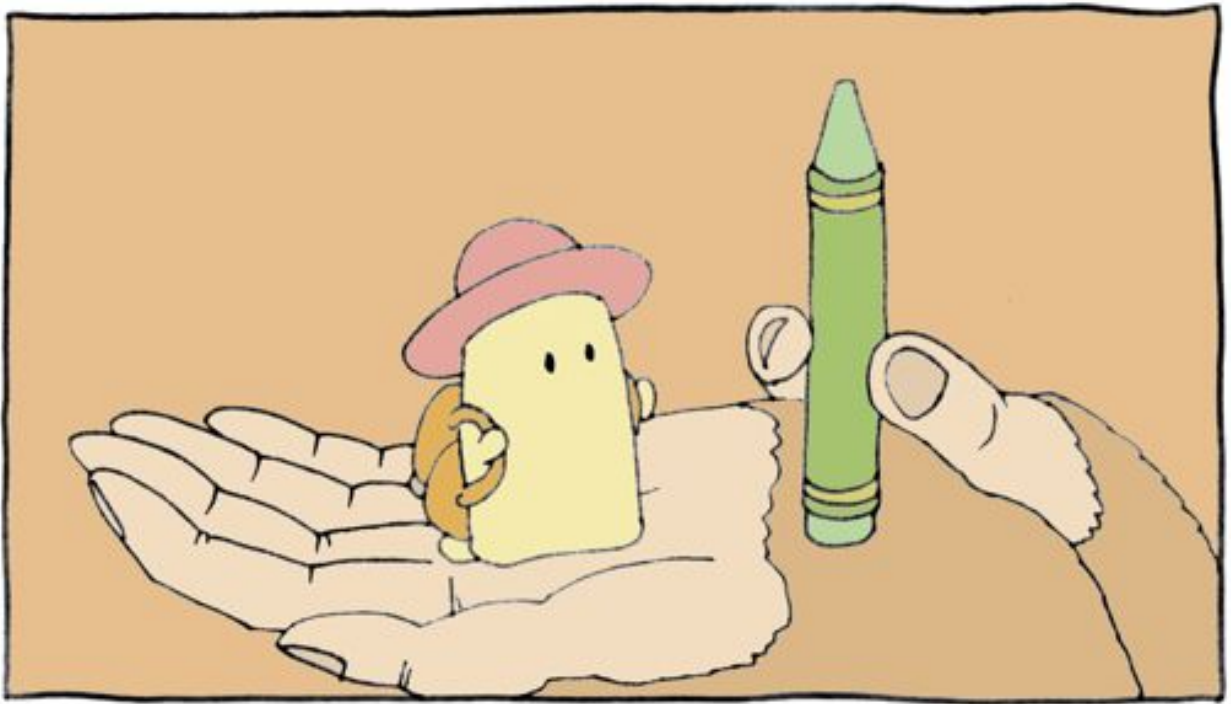
「テトって どれくらい ちいさいの?」
うしろにいる サルラたちは テトが みえません。



「こめつぶ くらい？」ある サルラが ききます。
「ぼく そんなに ちいさくないよ。」テトが
こたえます。

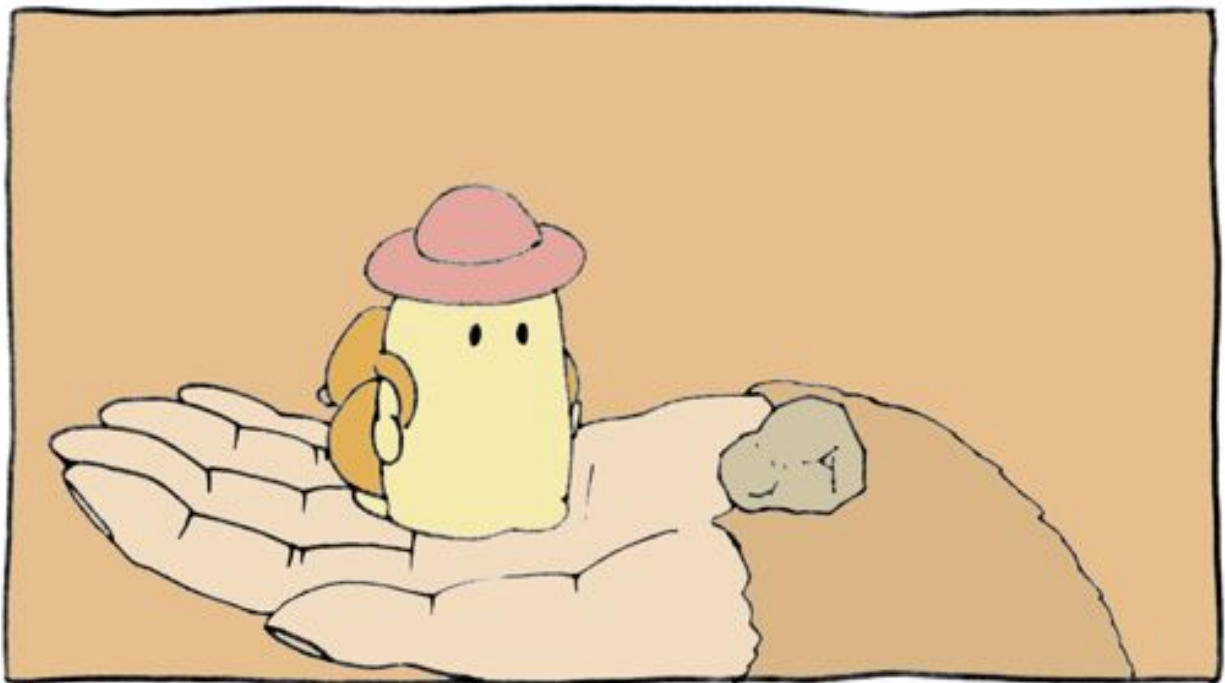


「かたつむり くらい？」
「ぜんぜん。ぼくの ほうが ずっと おおきいよ。」



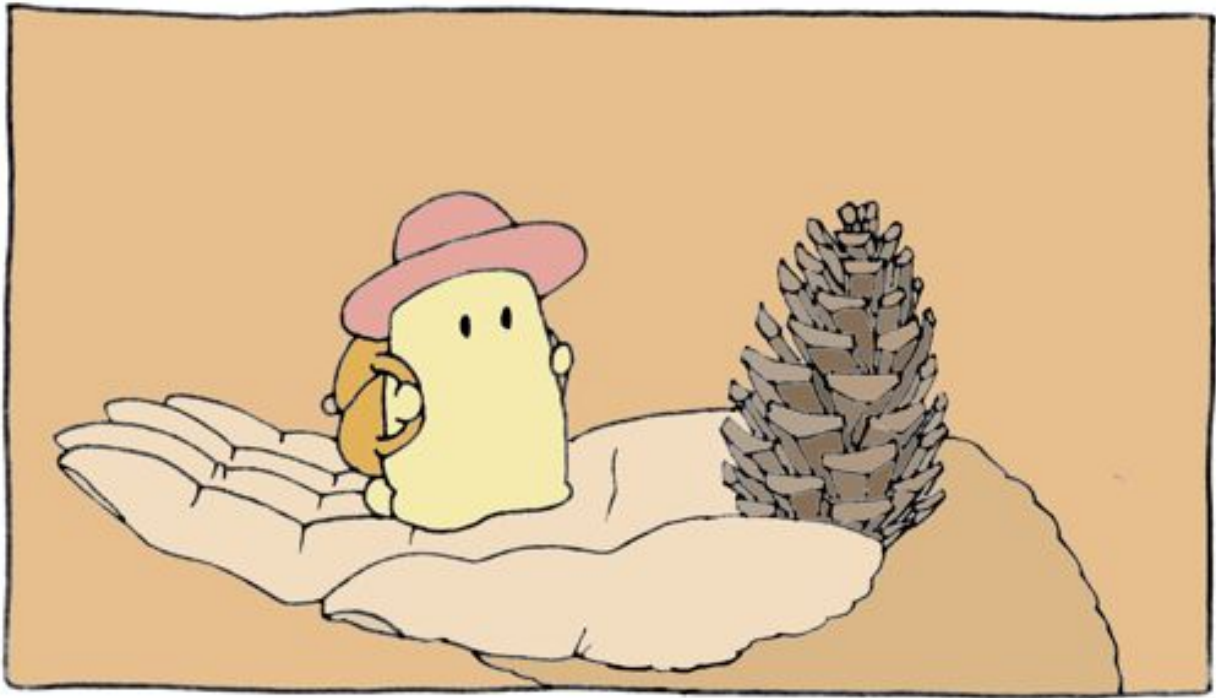
「クレヨン くらい？」

「ぼくのほうが すこしだけ ちいさいな。」



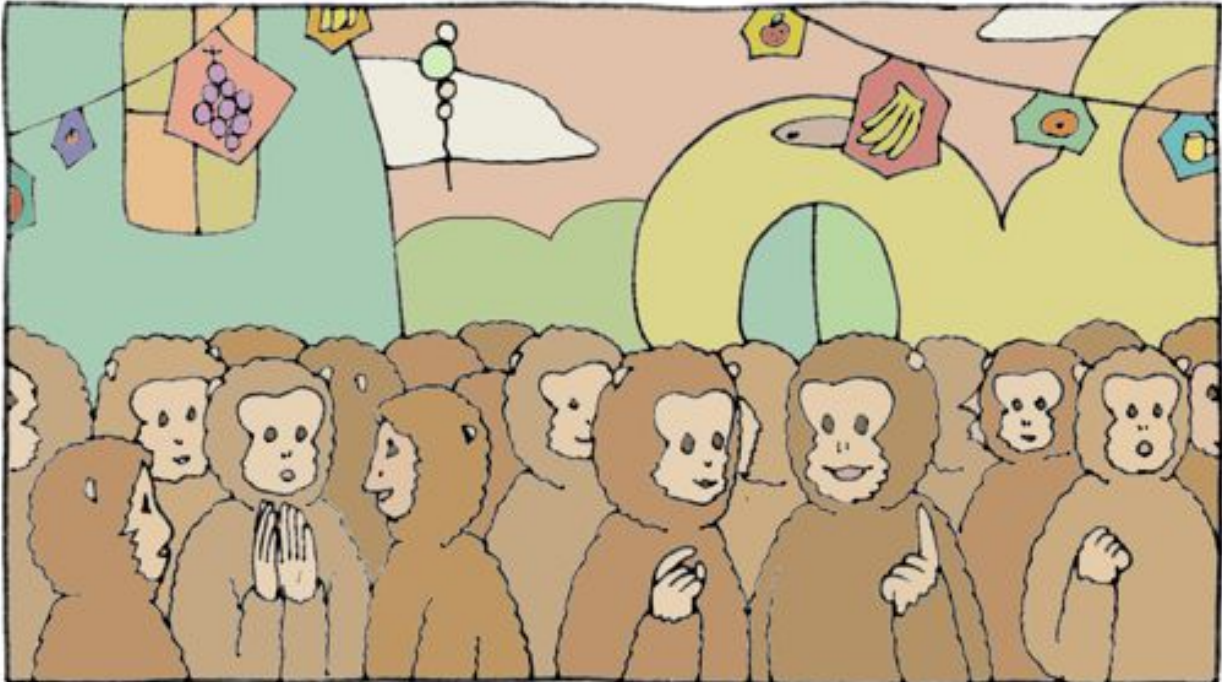
「いしころ くらい？」

「...いしころに よるよね。」



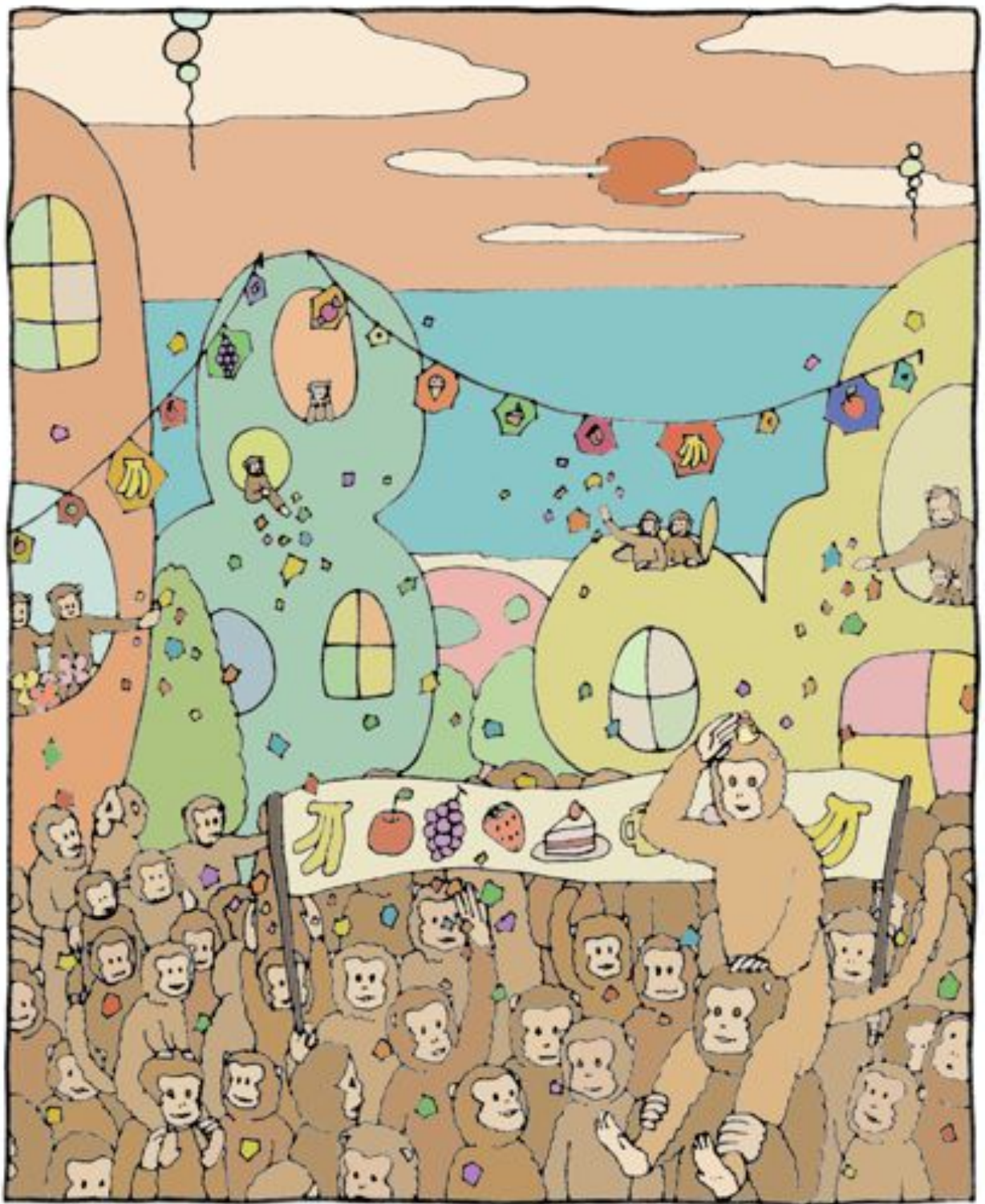
「ちいさな マツボックリ くらい？」

「うん…まあ、それくらいかな。」



「ちいさな マツボックリくらい だって！」

「テトから みた けしきは どんな かんじかな。」



「かんげいかいを はじめよう！」サルが いい、
テトの かんげいかいが はじまりました。
それから すぐに テトから みた けしきを
サルラたちも みることに なりますが、それは
また べつのおはなし。